

第5章 (仮称)札幌市障がい者スポーツセンターの基本的な要件

1. 施設の方向性

前章の基本理念・基本方針に基づき、様々な障がい種別に対応できる設備・機能を備えた施設とするとともに、様々な障がいがある方への情報保障や利便性の高い施設運営の観点から、館内掲示や情報発信、来館時の受付や予約等において、デジタル技術を活用していきます。

また、障がいに対する知識や経験を備えた指導者やスタッフを配置し、安心してスポーツを行えることはもとより、スポーツ導入支援から競技力向上まで、幅広く対応できる運営体制を構築します。

さらには、情報拠点や人材の育成・供給の機能を担うとともに、障がい者スポーツネットワークの中核として関係機関や競技団体、医療・福祉・教育などの関連分野との連携なども行います。

2. 施設の基本要件(ハード面)

(1)施設機能(諸室)及び規模

他の政令指定都市の障がい者スポーツセンターにおいて、概ね整備されている機能としては、「体育館」、「プール」、「トレーニング室」、「多目的室等(サブアリーナ、小体育館等)」、「卓球室(サウンドテーブルテニス室を含む)」が挙げられます。

また、ランニングコースについては、積雪寒冷地である札幌市においては、冬季の安心・安全なスポーツ実施環境の確保の観点から、ニーズが高いものと考えられます。

実際に整備する機能や施設の規模等については、他都市の事例を参考に、今後、詳細を整理します。

【参考：他の政令指定都市の障がい者スポーツセンターの状況】

都市名	横浜市	名古屋市	大阪市		堺市
施設名	横浜ラポール	名古屋市障害者スポーツセンター	長居障がい者スポーツセンター	舞州障がい者スポーツセンター	堺市立健康福祉プラザスポーツセンター
延床面積	28,817 m ²	4,480 m ²	8,503 m ²	14,373 m ²	4,476 m ²
屋内	体育館	○	○	○	○
	ランニングコース	○	—	—	○
	プール	○	○	○	○
	トレーニング室	○	○	○	○
	多目的室等	○	—	○	○
	卓球室、STT室	○	○	○	○
屋外	ポウリング室	○	—	○	○
	屋外運動場	○	—	○	○
	アーチェリー場	○	—	○	○
その他諸室(主なもの)	シアター	観覧席、会議室	会議室	研修室、宿泊室	—(併設施設にあり)

都市名	京都市	神戸市	広島市	福岡市	北九州市
施設名	京都市障害者スポーツセンター	神戸市立市民福祉スポーツセンター	広島市心身障害者福祉センター	福岡市立障がい者スポーツセンター	北九州市障害者スポーツセンター
延床面積	6,995 m ²	5,573 m ²	7,117 m ²	4,666 m ²	10,234 m ²
屋内	体育館	○	○	○	○
	ランニングコース	○	—	—	—
	プール	○	○	○	○
	トレーニング室	○	—	○	○
	多目的室等	○	—	○	○
	卓球室、STT 室	○	—	○	○
	ボウリング室	—	—	—	—
屋外	屋外運動場	—	—	—	—
	アーチェリー場	○	—	○	—
その他諸室(主なもの)	会議室	—(併設施設にあり)	会議室、印刷室	講習室	会議室

※R3 年度障がい者スポーツの活動拠点の整備に向けた調査業務報告書(札幌市)、施設 HP 等をもとに作成

施設の規模や機能等については、今後、関係者等の意見を参考にしながら、具体的な内容を検討、整理していきます。

なお、上記に加え、整備地周辺の状況により、グラウンド等の設置や周辺施設との連携等も検討します。

(2)施設の立地

施設の立地については、アクセス性、面積、土地規制等を考慮のうえ、今後、検討を進め、構想策定後の整備基本計画の中で、整理していきます。

特にアクセス性に関しては、積雪寒冷地である札幌市の気候事情も踏まえ、障がいのある方に係る「移動のバリアフリー」の視点で公共交通機関(地下鉄)からのアクセスの円滑化の観点は非常に重要な要素と考えられるため、特に慎重に検討する必要があります。

3. 施設の基本要件(ソフト面)

(1)障がいのある方がいつでも気軽に利用できる機会の提供

障がいのある方が1人で来館しても安心して利用・参加できるよう、パラスポーツ指導員などを配置した個人利用の時間帯を設けます。また、障がいのある方が用具を持参しなくてもスポーツが行えるように各種スポーツ用具や器具を配備します。

<取組例>

障がいのある方が個人で利用・参加できるプログラムの実施
障がい者スポーツ用具の貸出 など

(2)指導・相談機能

スポーツをこれから始める障がいのある方に対し、安全に配慮した指導、障がいのある方の個々の事情に合った継続的なスポーツ実施に関する助言、地域の活動拠点(チーム・クラブ・サークル等)につなぐ役割を担います。

<取組例>

医事・スポーツ相談事業、地域への出張教室 など

(3)人材育成機能

パラスポーツ指導員やボランティアをはじめとした、障がい者スポーツを支える人材の育成や、障がい者スポーツに関わる方へのノウハウの提供を行います。

<取組例>

パラスポーツ指導員養成講習会、ボランティアスキルアップ研修会
障がい者スポーツ支える人材と活動の場とのマッチング
各団体や地域への指導者の派遣 など

(4)情報拠点機能

誰もが見やすく、理解しやすい情報発信ツールを整備し、障がい者スポーツに関する取組やイベント、大会等の情報収集や情報提供を行うほか、スポーツに馴染みのない障がいのある方にスポーツを実施してもらうための情報発信を行います。

<取組例>

ホームページのバリアフリー化(音声読み上げ機能)・ユニバーサルデザイン化
障がい者スポーツに関するノウハウの蓄積・活用
障がい者スポーツセンターの社会科見学 など

(5)ネットワーク機能

上記(1)～(4)の機能を効果的に実施するため、また障がい特性や運動・スポーツ等に関する高い知見及び専門性を持つ人材の配置、障がい種別、年齢などに応じた多様なプログラムの構築などを円滑に行うために、医療・教育・福祉などの関係機関・団体との強固なネットワークを構築します。